

令和7年度 第1回射水市食育推進会議 会議録

開催日時 令和7年7月17日（木）午後1時30分から2時40分

開催場所 射水市役所 302・303 会議室

出席者 射水市食育推進会議委員〔5名〕

姫野委員（会長）、尾上委員（副会長）、金森委員、亀谷委員、杉高委員

射水市食育推進会議幹事会〔11名〕

杉本福祉保健部長、菓子福祉保健部次長、長面政策推進課長補佐

市井環境課長、坂井保険年金課長補佐、三浦保健センター所長

水島子育て支援課長、坂井こども福祉課長、分家観光まちづくり課長補佐

野崎農林水産課長、佐藤学校教育課長

事務局〔4名〕

坂本保健センター所長補佐、山口主査、中谷主任、澁谷管理栄養士

1 開会 （司会：坂本保健センター所長補佐）

2 会長あいさつ

3 新任委員の紹介

4 議事

(1) 射水市食育推進計画の進捗状況について（資料1・資料2）

(2) 射水市の食育関連事業の実施状況について（資料3）

(3) 第4次射水市食育推進計画策定について（資料4・資料5・資料6）

意見交換、質疑応答

(1) 射水市食育推進計画の進捗状況について（資料1・資料2）

(2) 射水市の食育関連事業の実施状況について（資料3）

【会長】 資料2から子育て世代に朝食を食べて毎日食べる人の割合が減少しているが、子供たちは保護者の影響を受けて育つ。若い世代が朝食を食べるためにどうすればよいか。

【委員】 毎日3食きちんと食べることで丈夫な体を作られるので、早寝早起きをして朝食をとることは大切。まず親が規則正しい生活をしなければいけない。

【委員】 朝食に手間をかけないように、火を使わないレシピや、簡単に作れるおにぎりなどを提案して普及してはどうか。

【委員】 保護者向けに親子で食べられる朝食レシピを SNS を使って発信してはどうか。

【会長】 皆さん忙しいので短時間で料理ができれば喜ばれると思う。若い方へは SNS を活用して広めていければよい。

【会長】 射水ブランド商品が令和4年からゼロだが、以前はどのような商品があったのか。

【幹事】 内川を散歩しながら食べ歩きができるお菓子や、かまぼこなどの商品の開発があった。最近ではムズムズを使った商品の相談を受けている。

【委員】 食事だけではなく、生活リズムを整えなければ食育にたどり着くことが難しい。世の中は全般的に生活が夜型化してきており、朝食を食べる習慣が徐々に減る原因になっている。いろいろな方面から生活リズムを整えていくような働きをしていかなければいけない。早寝早起き朝ご飯という言葉もあるが、射水では「あったか家族」の合言葉「家族いっしょに食事、おしゃべり、お手伝い」を子供たちに呼びかけながら、食育について取り組んでいる。

給食では栄養教諭や栄養職員たちが献立のメニューを工夫し、子供たちが毎日楽しく美味しく給食を食べている。給食は見た目も重要。物価高騰の中、食材の準備や工夫がされており、見た目もよく味つけも美味しい。そういった給食を生かしながら、子供たちに食育をしっかり定着させていきたい。

また地元農業者が食育の講演をしたり、環境教育も含めて講演をしてもらう中で子供たちは食べ物にいろいろな関心を持ってきている。

【委員】 食育には、体を養う食の大切さ、心を養う食の楽しさ、命と物を尊ぶ食への感謝という三つのテーマがある。

最近の子供たちは硬いものよりやわらかい食事を好み、顎が弱いと聞く。顎の発達が脳へも影響するということなので、噛むことの大切さを地域の子供たちに広めたい。

高齢者にはフレイル予防教室を実施している。低栄養にならないよう、どのような食事をバランスよく食べればよいかということなどを広めている。

若いお母さんには食育の意味として食べることも大事だけれど、心を育てることも大事だということを話している。

【委員】 保護者に食育をしていく難しさを感じている。子育て世代や、子供の朝食の摂取率が下がっているという結果で、家庭での食育が大事だというのを感じた。将来、お父さんお母さんになった時に望ましい食習慣をしていけるように、小中学校の子供たちに、朝食や噛むことの大切さ、マナーや心の健康のための食事を今後も伝えていきたい。

【会長】 射水市としてはたくさんの事業を実施しているので、もっと周知をしていくことも大事。どのようにして知らせていくか、今後検討してほしい。

【委員】 「食育の日」は食改は活動しているようだが、一般の住民には浸透していない状況。

(3) 第4次射水市食育推進計画策定について（資料4・資料5・資料6）

【会長】 資料4の問14から、農林水産業を理解したい等の回答が少ない。食文化の伝承や射水市産食材への愛着を形成するため、どのような取組が効果的と考えられるか。

【委員】 射水の魚をたくさん食べるために子供の好きな調理方法を伝えるのが良い。また魚のさばき方教室のような調理体験ができるとよい。

【委員】 毎年チャレンジ農業体験を市内小学校5、6年生を対象に実施しているが、年々参加者が減っている。保護者や先生の後押しで多くの子供たちに参加してもらい、農業に興味を持ってほしい。また、伝承料理や特産品を使った料理体験の機会が繰り返しあればよい。

【委員】 地元産の食品を使ったものをブランド化し、若者向けのイベントなどで、キッチンカーで販売、PRしてはどうか。また学生向けに、郷土料理伝承のための教室を行ってはどうか。

【委員】 資料5-2 体系図の4地域における食育の推進の中で地域振興会の名前がある。どのボランティア団体でも高齢化や人口減少により運営が大変難しくなっている状況。特定の団体名ではなく、皆さんが自分自身のことだと分かるような表現にしてはどうか。